



回覧

令和7年7月31日(木) 羽茂こども園 副園長 吉田 歩

戸外遊びが制限されるほどの暑さが続きますが、大胆に全身で水を浴びたり、水の滴りをじっと見つめたり、楽しみ方は様々で水遊びを存分に楽しむ子ども達です。夏野菜の収穫、セミ探しなど夏ならではの経験もできるよう熱中症対策等を十分に行っていきたいと思います。

7月に開催された保育参観や個別懇談会では、お忙しい中お越しいただきありがとうございました。これからも子ども達のために、園と家庭との連携を大切にしながら、保育に努めてまいります。

8月の行事予定

日	曜日	予定	対象クラス
1日	金	行事食	全園児
5日	火	羽茂高校職場体験(～6日) 7名	全園児
6日	水	佐渡高校保育現場体験 2名	全園児
8日	金	羽茂高校保育現場体験 1名 / 布団の手入れ 夕涼み会(保護者会主催)	全園児 / 全園児 全園児
11日	月	山の日	
12日	火	1号認定園児夏季休暇(11日～17日) / 2・3号認定園児希望保育(～15日)	全園児 / 全園児
22日	金	誕生日給食 / 布団の手入れ	

※土砂災害を想定した避難訓練を行います。

※身体測定の日程につきましては、アプリ コドモンのカレンダーよりご確認ください。

9月の主な行事予定・・・19日(金) 祖父母参観・26日(金) 親子遠足(0、1、2歳児)

高校生保育体験

行事予定に記載がありますが、8月には高校生が保育体験します。「興味があって。」「将来保育士になりたいくて。」と、熱意を持って参加する生徒もいます。たくさん触れ合って楽しい時間を過ごしてほしいと思います。

職員についてのお知らせ

〇下記職員が8月7日より、出産休暇に入ります。

*保育教諭 長島 若奈

この度、出産に伴い、お休みをいただくことになりました。初めての出産と育児にドキドキする気持ちもありますが、元気な赤ちゃんを産んで、また羽茂こども園に復帰したいと思います。子ども達や保護者の皆さまにお会いできるのを楽しみにしています。



8月うまれの友だちを紹介します



☆ときぐみ(6さい)

かねこ いくすん

ばん つむぎ さん

わたなべ かなた さん

☆かわせみぐみ(5さい)

たけい だいち さん

わたらい みか さん

おたんじょうび
おめでとう!

☆きじぐみ(4さい)

なかま しずく さん

わたなべ あお さん

☆つばめぐみ(3さい)

いけ りんか さん

おなか やまと さん

☆ひよこぐみ(1さい)

ふくい ひより さん



保育園留学園児の紹介

すでに数名の留学園児を迎えましたが、「帰りたくない」と話すほど楽しい時間を過ごしているようで、大変嬉しく思っています。8月の留学園児を紹介いたします。

〇8月3日～8月8日

4歳児 1名



新しい友だちを紹介します

〇8月29日より入園します。

つばめ組

おなか やまと さん



よろしくお願いします。

おとまり会

今年も年長児がおとまり会を企画し、無事開催することができました。前日の買い出しから始まり、おとまり会当日は、一日中ワクワクドキドキした様子の子供達でした。調理、掃除、洗濯、焚き火、入浴と、生活に必要なことを自分でやってみるという目白押しな一日でしたが、どれも子ども達の生き生きとした姿、本当に楽しそうな表情から、貴重な体験となったと感じました。



Aコープで目当ての食材を店内で友だちと協力して探して買ったり、夕飯のカレーライスの調理では、ピーラーや包丁を使って下ごしらえをしたり、園庭でカレーを煮込んだり、頑張って作ったカレーライスは絶品だったようです。



午後からは園庭で過ごし、焼きマシュマロを作ったり、夕飯ができるまで、ひと休みしたり、のびのびと過ごしました。



毎年恒例のおとまり会ですが、翌日の朝を迎えると、子ども達からは一皮も二皮もむけたような頼もしさを感じます。今回の経験を自信として、これからの生活の中で生かしていってほしいと思います。



ファミリーデー プレゼント

本日(7月31日)ファミリーデーのプレゼントを持ち帰ります。子ども達一人ひとりがお家の方へ思いを込めて丁寧に作った作品です。ぜひ子ども達の「大好き!」「ありがとう」の思いを受け取っていただければと思います。

裏面に、園長「はもちのほいく」があります。こちらも含めてご覧ください!



「今日も朝から暑いですね～」の言葉が朝の定番の挨拶になってしまうほどの酷暑が続いています。例年以上の暑さのため室内で過ごす時間も多くなりますが、外遊びが可能な日は、暑さなどお構いなしと言わんばかりに、思い切り水遊びや虫探しを楽しむ子ども達です。

暑い日に触れる水の感触は、この夏でなければできない経験です。子ども達は冷たい水の心地よさや水たまりに広がる波紋の不思議さに、水遊びを通して様々なことを感じ取って遊んでいます。

また、春に植えた野菜が収穫の時期を迎えました。収穫したきゅうりにかぶりついたり、すいかわりを楽しんだり、自分たちで水やりをして育てた野菜を食べ、最高の食育に親しんでいる子ども達です。



夏を満喫する
子ども達

保育園留学はじまりました

4月に保護者の皆さまにお伝えした保育園留学がいよいよはじまりました。6月の留学園児第1号を皮切りに、7月現在3組の留学園児を迎えています。

留学園児を迎える初日、やはり私たちも緊張しました。「慣れない場所に不安はないかな」「留学の1週間、『イヤだ』って泣いて過ごしたらかわいそうだな…」など、どうしても心配が先に立つのです。きっとそれは、留学する園児、保護者の方もきっと同じだったと思います。

ところが、現在迎えている3組の留学園児は、最初こそ緊張した様子があったり、涙が出たりしましたが、すぐに自分のやりたい遊びを見つけ集中して遊んだり、自分のことを話したりと、私たちの予想を見事に裏切る嬉しい姿がありました。

最初の留学園児の4歳児Aさん。登園してしばらくすると「Aはね、工作の名人なんだ」といいながら器用にはさみを使い、空き箱制作を楽しんでいました。すると傍で制作を楽しんでいる子ども達と自然に会話し始めます。まるでずっと前から一緒に過ごしていたみたい、すーっとクラスの中に溶け込んでいく姿がとても印象的でした。佐渡を離れる前にどうしても運動会に参加したいとご家族揃って来場し、出発ギリギリまでオープン競技に参加するなど、佐渡の生活、羽茂こども園での生活を楽しんでもらえたことをとても嬉しく思っています。

今週から始まった3組目の留学では、異年齢の留学園児と関わる中で、3歳児きじ組の子ども達の様子に変化がありました。「BさんがCさん（留学園児）をととてもリスペクトしているようで、Cさんの遊びを真似たりしながら一緒に遊んでいます。年上の友達に元々興味を持っていたBさんなので、いろいろ吸収しながら遊んでいて、とても楽しそうです。」と担任から嬉しい報告がありました。

このように、留学園児の子ども達は新しい環境に溶け込む時間がとても早く、留学先であるこの羽茂こども園での生活を満喫する姿に、私たち職員の方が驚かされることばかりです。そして、羽茂こども園の子ども達も、新しい友達を受け入れることに戸惑いがなく、いつの間にか、まるで以前から友達であったかのように接している姿に、「子どもの力って本当にすごいなあ。」とつくづく感じています。

2組目の留学園児の保護者の方から、最終日の降園後に次のような感想をいただきました。

～「5日間、ありがとうございました。本当に楽しく過ごせていたと思います。先生方が優しく大らかに見守ってくれたおかげです。子どもたちもコミュニケーション能力高めの子が多く、我が子だけではなくわたしまでも仲間に入れてくれました。名残惜しいですね。この縁を繋いでいたいと感じています。小木地区は明日離れますが、佐渡はあと2日間楽しみたいと思います。頂いたおたんじょうびおめでとうピックの封筒に、とても丁寧な字で「ありがとう」と書いていました。」～

(※小木地区に宿泊されていました)

とても嬉しい言葉です。

この取り組みはまだ始まったばかりですが、これからも保育園留学を通して、留学する園児にとっても、羽茂こども園の園児にとっても、互いに有意義な時間を過ごせるよう、また、留学された保護者の方にとっても、いただいた感想の中にあるように「このご縁をつないでいたい」と思ってもらえるよう、取り組んでいきたいと思っています。

保護者のみなさま、地域のみなさまにも、ご理解・ご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

新潟日報に掲載されました。
どうぞご覧ください。

島外から「保育園留学」導入2年

2園に拡大利用好評

佐渡市の保育園が島外の未就学児を数週間程度受け入れる「保育園留学」を始め、2年がたった。自然に親子の保育園体験と、家族の観光が両立できるとあって、首都圏の親子を中心に春から夏の予約が相次いでいる。6月には島内2カ所の施設が受け入れを開始。継続的に地域を訪れる「関係人口」を拡大する一手として期待がかかる。

保育園留学は「キッズの歴史館」園長(49)は手「ハイ」(東京)が20 応えを語る。23年度は521年に北海道を皮切組、24年度は9組と増加りに始め、現在は全国し、本年度は既に19組の44市町村の53園に広がる。この中で約2200組の利用があり、首都圏の共働き世帯が約7割を占めるという。県内では南魚沼市に続き、佐渡市は羽茂保育園が23年6月に受け入れを開始した。「春から夏まで、常に留学生がいる状態になりつつある」。羽茂保育園

首都圏親子ら観光と両立

「羽茂こども園」の保育園留学第1号の園児(中央)。園庭でミリスを見つけ、笑顔を見せた11月6日、佐渡市羽茂本郷

れ、留学先として面白いはず」と語った。佐渡2例目の受け入れ先となる「羽茂こども園」は急速な少子化への危機感から、導入を決めた。8年ほど前、100人を超えていた園児は本年度55人まで減少。保育園留学を活性化につなげたいと考える。石木むつみ園長(58)は「10人を切るくらいは、留学先として面白いはず」と語った。

卒業までほぼ同じ顔ぶれ。在園児にとっても、留学生の存在が良い刺激になる」とみる。初年度は6組の留学が決まっていた。東京都の会社員、曾我部理志さん(40)は6月、1週間の夏休みを利用して、家族4人で初来島。留学第1号となった長男、環太ちゃん(4)は曾我部、園庭のない保育園に通う。外遊びを重視する羽茂こども園では、園庭での中探しに熱中した。

理志さんは「違う環境でも伸び伸びと過ごす子どもが意外だった。『留学』といってもあまり気持ちよく利用したらいいと思う」と話した。佐渡市移住交流推進課は2園で年間30組の目標を掲げる。「車を運転しない家庭が多く、園の徒歩圏に滞在拠点を設けるのが理想だ。移住者数が減る中で、関係人口を増やしていきたい」としている。